User manual

by Sparx Systems Japan

Enterprise Architect・Polarion 連携ツール

LemonTree.Connect Polarion ユーザーマニュアル

（2025/09/03 更新）

Copyright (c) 2025 Sparx Systems Japan

内容

1. はじめに 3
2. システム要件 3
3. インストール 3
4. ライセンスの設定 4
4.1. ライセンス画面の起動 4
4.2. ライセンスの設定 4
4.2.1. 評価ライセンス 4
4.2.2. フローティングライセンス 5
4.3. HostId の取得・変更（製品版ラインセンス） 6
4.3.1. HostId の取得 6
4.3.2. HostId の変更 6
5. ご利用いただく前に 7
6. サンプルプロジェクトの利用 8
6.1. Polarion でサンプルプロジェクトを作成 9
6.2. LemonTree.Connect Polarion の接続設定 11
6.3. インポート（Polarion → Enterprise Architect） 13
6.4. エクスポート（Enterprise Architect → Polarion） 17
7. 機能紹介 20
7.1. インポートで削除候補となった要素・接続に対する操作 20
7.2. エクスポートで要素の削除検知 21
7.3. エクスポートで要素とダイアグラムのリンク作成 21
8. FAQ 22
8.1. エクスポート対象となる要素・属性・接続の種類 22
8.2. Enterprise Architect で他のアドインの表示が日本語から英語に変わる 22
8.3. Enterprise Architect のトレーサビリティマップアドインを使用できない 22

Copyright (c) 2025 Sparx Systems Japan

1. はじめに

- ✓ 本資料ではサンプルプロジェクトを利用する前提で機能説明をしています。
- ✓ 本資料は LemonTree.Connect Polarion バージョン 3.1.0 を基に作成されています。
- ✓ LemonTree.Connect Polarion はオーストリアの LieberLieber Software 社の製品です。
- ✓ 「LemonTree.Connect Polarion」は「LemonTree」とは異なる製品です。
- ✓ LemonTree.Connect Polarion と Enterprise Architect の以下のアドインを同時に利用する場合、以下のアドインの表示が日本語から英語に変わってしまう問題があります。
  - ✓ 拡張マトリックスアドイン
  - ✓ トレーサビリティマップアドイン
  - ✓ 利用されているダイアグラムアドイン

  回避策につきましては下記フォーラムをご確認ください。
  https://www.sparxsystems.jp/forum/modules/xhnewbb/viewtopic.php?topic_id=8056

2. システム要件

下記ページをご覧ください。
https://www.sparxsystems.jp/LemonTree/ltpo.htm#sysreq

3. インストール

※Enterprise Architect がインストールされている必要があります。

LemonTree.Connect Polarion のインストールを開始するには、Enterprise Architect が起動していないことを確認した上で、LemonTree.Connect.Polarion.msi をダブルクリックしてください。

インストールが完了しましたら、次章に進んでください。

Copyright (c) 2025 Sparx Systems Japan

4. ライセンスの設定

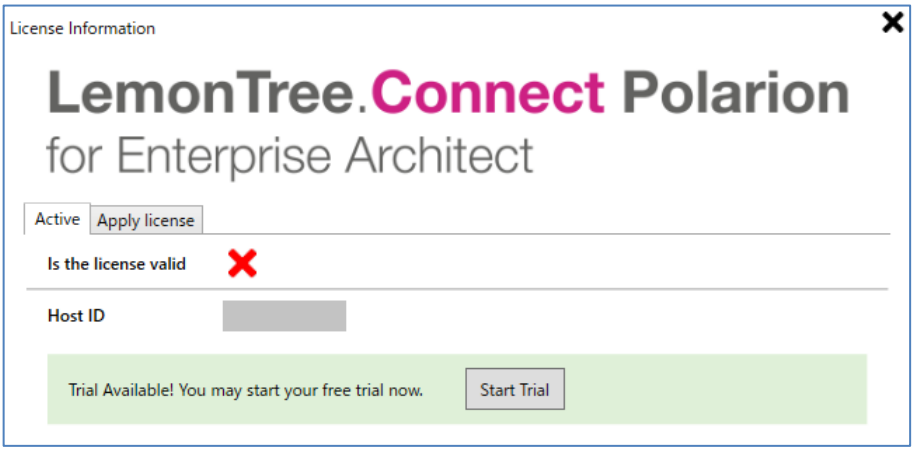
4.1. ライセンス画面の起動

Enterprise Architect を起動します。「アドイン・拡張」リボンより、アドインメニュー ＞ LemonTree.Connect for Polarion ＞ License でライセンス画面を表示します。

4.2. ライセンスの設定

4.2.1. 評価ライセンス

下記画面で「Start Trial」をクリックします。



Copyright (c) 2025 Sparx Systems Japan

4.2.2. フローティングライセンス

※フローティングライセンスを設定するためには、事前にライセンスサーバを設定する必要があります。
詳細につきましては以下の LemonTree マニュアルの 7 章をご参照ください。
https://www.sparxsystems.jp/bin/docs/LTManual.pdf

下記の「Apply license」タブの画面で赤枠に「ポート番号@サーバ名」を入力し、「Test」をクリックします。

接続確認が ok であれば、「Apply」をクリックしてライセンス設定を完了します。

Copyright (c) 2025 Sparx Systems Japan

4.3. HostId の取得・変更（製品版ラインセンス）

ここでは製品版ライセンスの入手に必要なライセンスサーバの HostId の取得方法などを説明します。

4.3.1. HostId の取得

HostId の取得方法につきましては、以下の LemonTree マニュアルの 4.3.2 章をご覧ください。
https://www.sparxsystems.jp/bin/docs/LTManual.pdf
※「LemonTree」と「LemonTree.Connect Polarion」は異なる製品としてお読みください。

4.3.2. HostId の変更

利用するライセンスサーバを変更したい場合は、下記 FAQ をご確認ください。
https://www.sparxsystems.jp/LemonTree/faq/faq_lic-price.htm#pur07
※LemonTree の FAQ ですが本製品も同じです。

Copyright (c) 2025 Sparx Systems Japan

5. ご利用いただく前に

以下をご確認ください。

- ✓ EAPX/QEAX ファイルが対象です。（QEA ファイルはサポート対象外です。）
- ✓ インポート・エクスポートは上書きとなります。ラウンドトリップ（双方向）は以下の理由で想定をしておりません。
  - ✓ 要求は Polarion、アーキテクチャ・ダイアグラムは Enterprise Architect、でそれぞれ管理することを前提
  - ✓ Enterprise Architect、Polarion、双方のツールで同じ要素の変更によるコンフリクトの防止
  - ✓ ワークフローの明確化
- ✓ インポート
  - ✓ Polarion の要求や要求間のリンクの削除は、Enterprise Architect では当該要素や接続にステレオタイプ「LemonTree Connect::deleted」を設定する形で反映され、削除はされません。その後の Enterprise Architect での操作方法につきましては、7.1 章をご確認ください。
  - ✓ Polarion の要求間のリンクの変更（UI 上では既存のリンクを削除して、新規にリンクを追加）は、Enterprise Architect では接続の削除と追加の扱いとしてそれぞれ反映されます。（接続の削除は前述の処理となります。）
- ✓ エクスポート
  - ✓ Enterprise Architect の要素の削除は、デフォルト設定では Polarion には反映されません。ただし、削除検知機能を設定することで、削除要素を Polarion の専用 Work Item の配下に移動させる形で削除を反映することができます。詳細は 7.2 章をご確認ください。
  - ✓ Enterprise Architect の接続の削除・変更は、Polarion に反映されます。

Copyright (c) 2025 Sparx Systems Japan

6. サンプルプロジェクトの利用

本製品の動作を知るために、まずはサンプルプロジェクトのご利用をお勧めいたします。
サンプルプロジェクトの利用に必要なデータは、ダウンロードフォルダあるいは CD に格納されており、
主に以下の動作を確認することがきます。

- ✓ インポート（Polarion → Enterprise Architect）
  - ✓ Polarion の Work Item を、Enterprise Architect の要求要素として連携
  - ✓ Polarion の要求間のリンクを、Enterprise Architect の要素間の実現関係として連携

- ✓ エクスポート（Enterprise Architect → Polarion）
  - ✓ Enterprise Architect の設計情報（ブロック・クラス要素）を、Polarion の Work Item として連携
  - ✓ Enterprise Architect の要素間の関連・実現の関係を、Polarion の Work Item 間に連携

サンプルプロジェクトの構成概要は以下のとおりです。

No.	項目	Polarion Work Items	Enterprise Architect パッケージ	用途
1	機能要求 *便宜的な仮称	Functional Requirements	SystemReqs *インポート前は「Package1」で要素なし	インポート用
2	非機能要求 *便宜的な仮称	Non-functional Requirements	同上	インポート用
3	設計情報	PWC *エクスポートで作成	System Architecture *要素あり	エクスポート用

サンプルプロジェクトの利用手順につきましては以下をご覧ください。

Copyright (c) 2025 Sparx Systems Japan

6.1. Polarion でサンプルプロジェクトを作成

以下の手順で Polarion にサンプルプロジェクトを作成します。

1. Polarion で「Create New Project」を選択します。
2. 「ID」などの項目は必要に応じて変更します。
   （このドキュメントでは、「ID」を「SystemReqs」、「Tracker Prefix」を「SR」、としています。）
3. 「Next」をクリックします。
4. Template は「-- no template (empty project) --」を選択して、「Next」をクリックします。
5. Summary で内容を確認し、「Next」をクリックします。
6. 「Project successfully created!」と表示されたら「Finish」をクリックします。

   以上でプロジェクトを作成できました。次に個別の設定やデータのインポートを行ないます。

7. 画面左上の歯車アイコンから Administration を選択します。

8. カスタムフィールドを追加します。
   左ペインで、Work Items > Custom Fields を選択します。
9. 「ファイルの選択」からサンプルプロジェクト用データの「custom-fields.xml」を指定し、「Upload」をクリックします。
   （カスタムフィールド「ea_guid」「my_uml_type」「EA_Author」が追加されます。）

10. 次に、Type 用のアイコンを追加します。
    左ペインで、Work Items > Types を選択します。
11. 「workitem-type-enum.xml」表示配下にある任意の Type の「Select」をクリックします。
12. 「ファイルの選択」からサンプルプロジェクト用データの「icons.zip」を解凍したフォルダ内の以下のファイルを指定し、「Upload Project icon」をクリックします。「Project icon set」配下にアイコンが追加されます。（1 ファイル指定のため、本操作は 3 回実施します。）
    - LemonTree.Connect_class.png
    - LemonTree.Connect_diagram.png
    - LemonTree.Connect_package.png
13. 「Cancel」ボタンをクリックして、「Select Icon」画面を閉じます。

14. 次に、Type を追加します。
    左ペインで、Work Items > Enumerations を選択します。
15. 画面下部にある「ファイルの選択」からサンプルプロジェクト用データの「workitem-type-enum.xml」を指定し、「Upload」をクリックします。
    （Work Items > Types に「block」「class」「diagram」「package」の 4 項目が追加されます。）

Copyright (c) 2025 Sparx Systems Japan

16. 次に、Role を追加します。
    前項と同じように「ファイルの選択」からサンプルプロジェクト用データの「workitem-link-role_enum.xml」を指定し、「Upload」をクリックします。

17. 次に、Work Item をインポートします。
    左ペインで、「Return to Project」をクリックします。
18. 左ペインで、「Work Items」を選択し、Work Items 画面にある歯車アイコン > Import を選択します。
19. 以下のように設定し、「Start」をクリックします。
    - Format: xlsx: Microsoft Excel Workbook
    - ファイル選択: サンプルプロジェクト用データの「workitems.xlsx」
20. デフォルト設定のまま、画面右上の「Next」をクリックします。
21. 以下のように設定し、画面右上の「Import」をクリックします。
    - Import rows as: Requirement
    - Title: Title
    - Description: Description

    Work Items 画面にインポートした Requirement が表示されます。

22. 次に、サンプルプロジェクトの便宜上、マトリックスを使って Requirement に親子のリンクを設定します。
    画面右上のアイコンから「Matrix」を選択します。
23. 「-- All Roles --」を「has parent」に変更し、マトリックス内のセルをクリックして以下のように親子のリンクを設定し、「Save」をクリックします。

    Functional Requirements
    - | – High torque detection
    - | – Power disable button
    - | – Lock Signal
    - | – Raise and lower window
    - | – Maximum time in motion
    - | – Signal discrepancy
    - | – Auto lower

    Non-functional Requirements
    - | – Two-door car model
    - | – System boundary
    - | – Simultaneous window movement

以上でサンプルプロジェクトの作成は完了です。次章に進んでください。

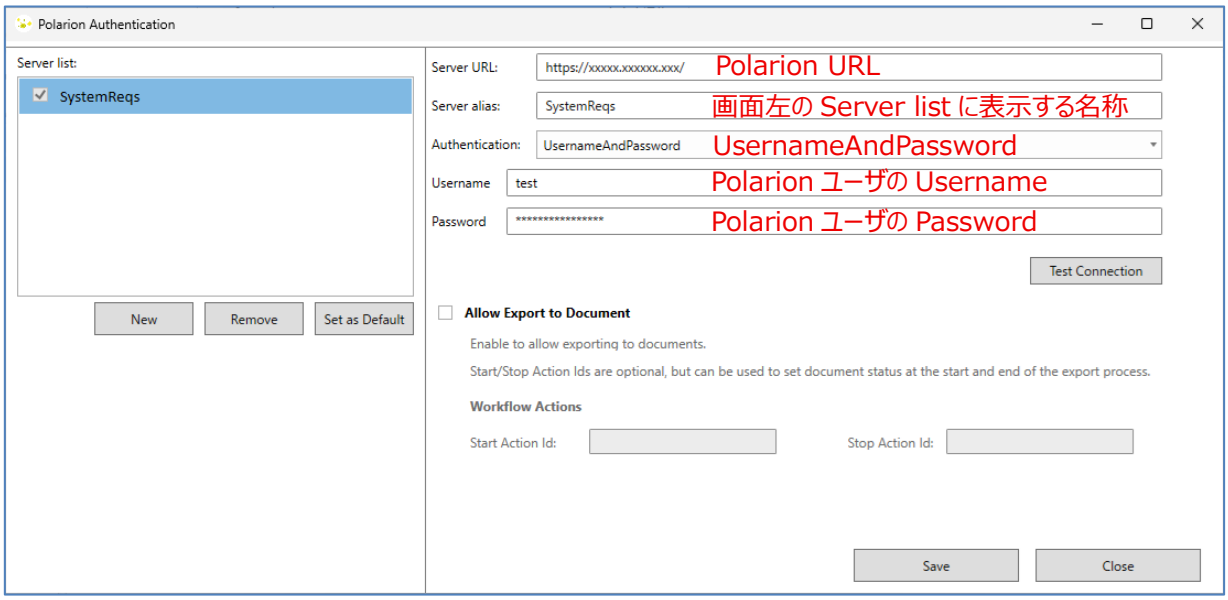
Copyright (c) 2025 Sparx Systems Japan

6.2. LemonTree.Connect Polarion の接続設定

以下の手順で LemonTree.Connect Polarion の接続設定を行います。
（LemonTree.Connect Polarion はインストール済みの前提です。）

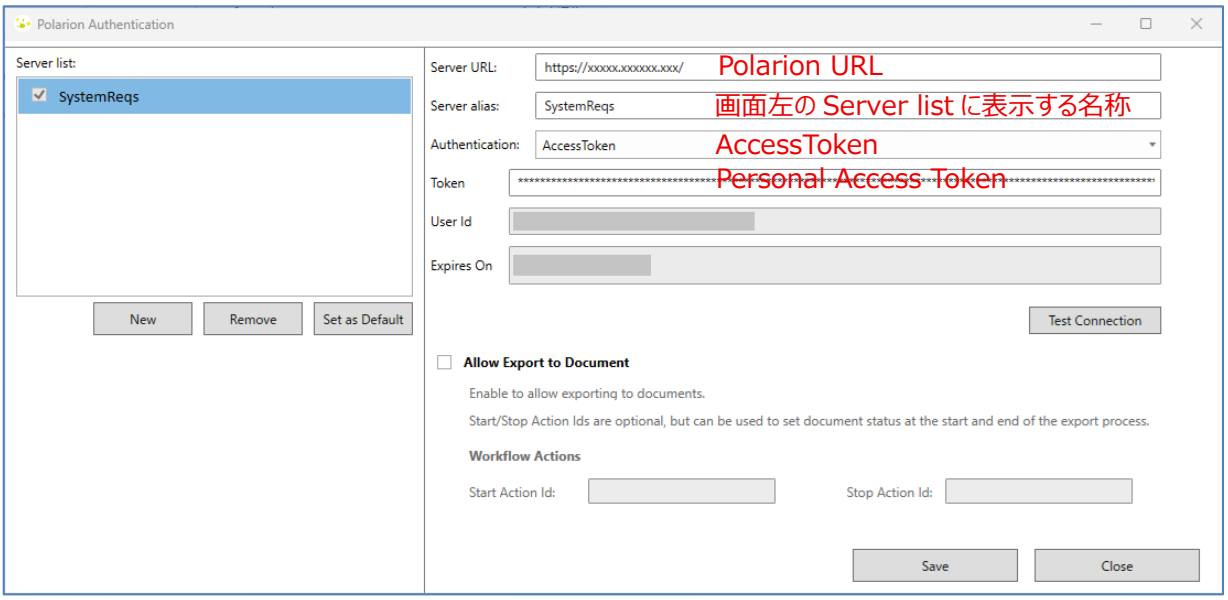
1. Enterprise Architect を起動します。
2. 「アドイン・拡張」リボンより、アドインメニュー ＞ LemonTree.Connect for Polarion ＞ Configure Polarion Server Settings を選択します。
3. サーバ情報を設定します。認証形式は UsernameAndPassword あるいは Personal Access Token となります。

3.1 UsernameAndPassword を利用の場合



Copyright (c) 2025 Sparx Systems Japan

3.2 Personal Access Token を利用の場合



※Personal Access Token の取得につきましては、下記ページをご覧ください。
https://help.lieberlieber.com/polarion/credentials-for-the-polarion-server/#personal-access-token

4. 「Test Connection」をクリックして Polarion への接続テストを行います。

5. 「Connection successful」が表示されましたら正常に接続できていますので、「Save」をクリックして保存し、「×」で画面を閉じます。

以上で Polarion への接続設定は完了です。次章に進んでください。

Copyright (c) 2025 Sparx Systems Japan

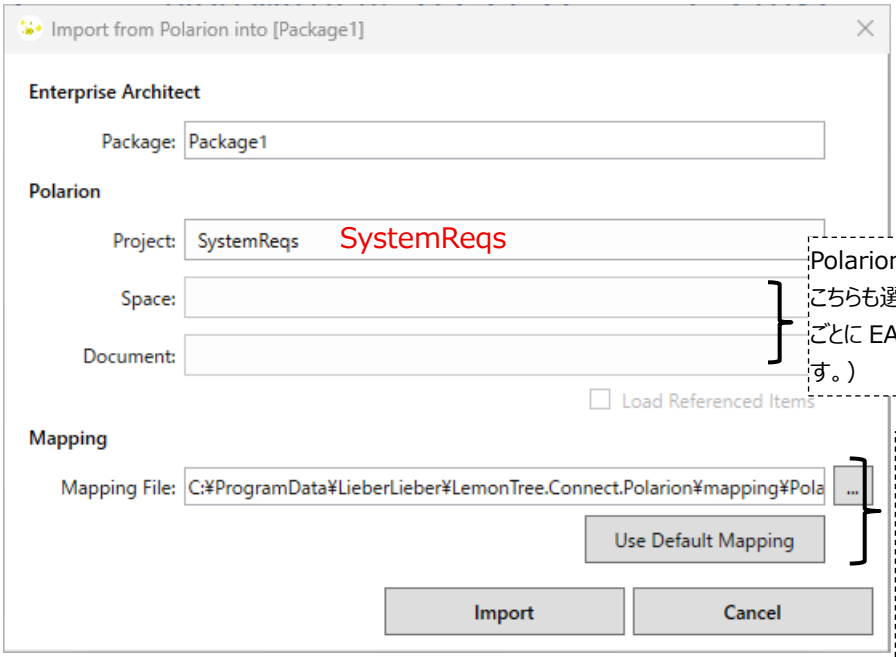
6.3. インポート（Polarion → Enterprise Architect）

Polarion の要求をインポートすると、Enterprise Architect で要求要素が作成されます。手順は以下のとおりです。

1. PowerWindowController.qeax を開きます。
2. インポートの設定を行なうため、モデルブラウザでパッケージ「Package1」を右クリック ＞ アドイン・拡張 ＞ LemonTree.Connect for Polarion> Import from Polarion を選択します。

Copyright (c) 2025 Sparx Systems Japan

3. 下記画面のように「Project」を選択し、その他の項目は必要に応じて選択します。



Polarion で Space、Document を設定している場合はこちらも選択します。（Document を利用すると、Document ごとに EA の指定したパッケージ配下にインポートすることもできます。）

Polarion の Work Item の種類・リンクと Enterprise Architect の要素の種類・接続の種類のマッピングとして、xml ファイルを指定します。デフォルトで既定ファイルが設定されています。

Mapping の変更方法は以下いずれかになります。
・1 回目の Import は、左記画面で xml ファイルを指定する
・2 回目以降の Import は、当該パッケージを右クリック ＞ LemonTree.Connect for Polarion ＞ Update Mapping を選択する

既定ファイルのマッピング概要（PolarionImportMapping.xml）

#	項目	Polarion	Enterprise Architect
1	WorkItem/要素	requirement	Class （EA Specifics 1.0::requirement）
2	WorkItem/要素	systemrequirement	同上
3	WorkItem/要素	softwarerequirement	同上
4	WorkItem/要素	customerrequirement	同上
5	WorkItem/要素	testcase	UseCase （testcase）
6	WorkItem/要素	Project	Model
7	リンク/接続	relates_to	Association
8	リンク/接続	depends_on	Dependency
9	リンク/接続	implements	Realization

※()内はステレオタイプです。

※2~4 の利用には Polarion で設定が必要です。6 は必須項目です。

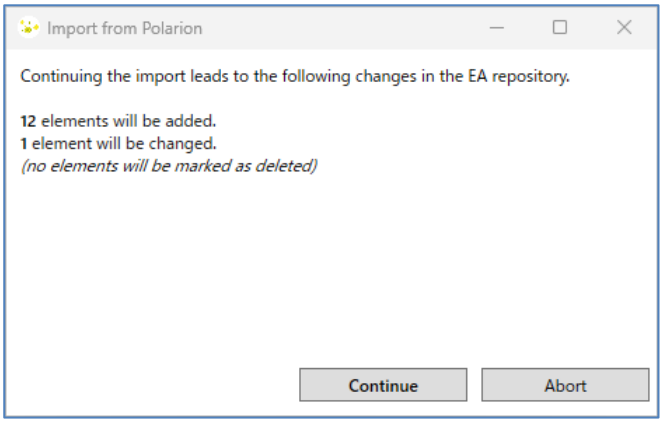
※開発元のページは下記をご覧ください。

https://help.lieberlieber.com/polarion/mapping-configuration/#default-import-mapping

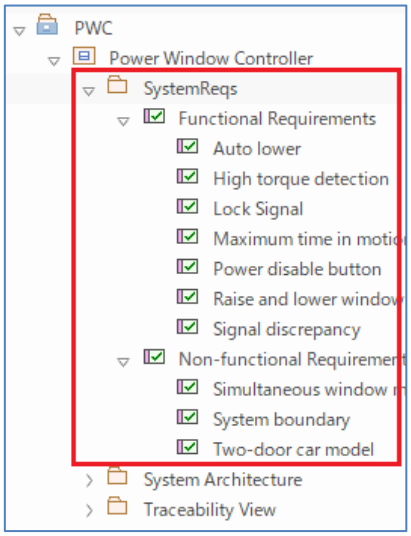
4. 「Import」をクリックしてインポート処理を開始します。

Copyright (c) 2025 Sparx Systems Japan

5. インポートが開始され、下記のような変更内容を示した事前確認の画面が表示されます。



6. インポートしてよろしければ、「Continue」をクリックすると実際にインポートが行なわれます。
結果として、以下のように「Package1」パッケージの名前が「SystemReqs」に変更され、その配下に要求要素が追加されます。



7. モデルブラウザで前述までにインポートした要求をダブルクリックすると、Polarion の当該 Work Item にジャンプします。（ダブルクリック操作以外に、要求を右クリック ＞ アドイン・拡張 ＞ LemonTree.Connect for Polarion ＞ Open in Polarion でもジャンプできます。）

以上でインポートの手順は終了です。次章に進んでください。

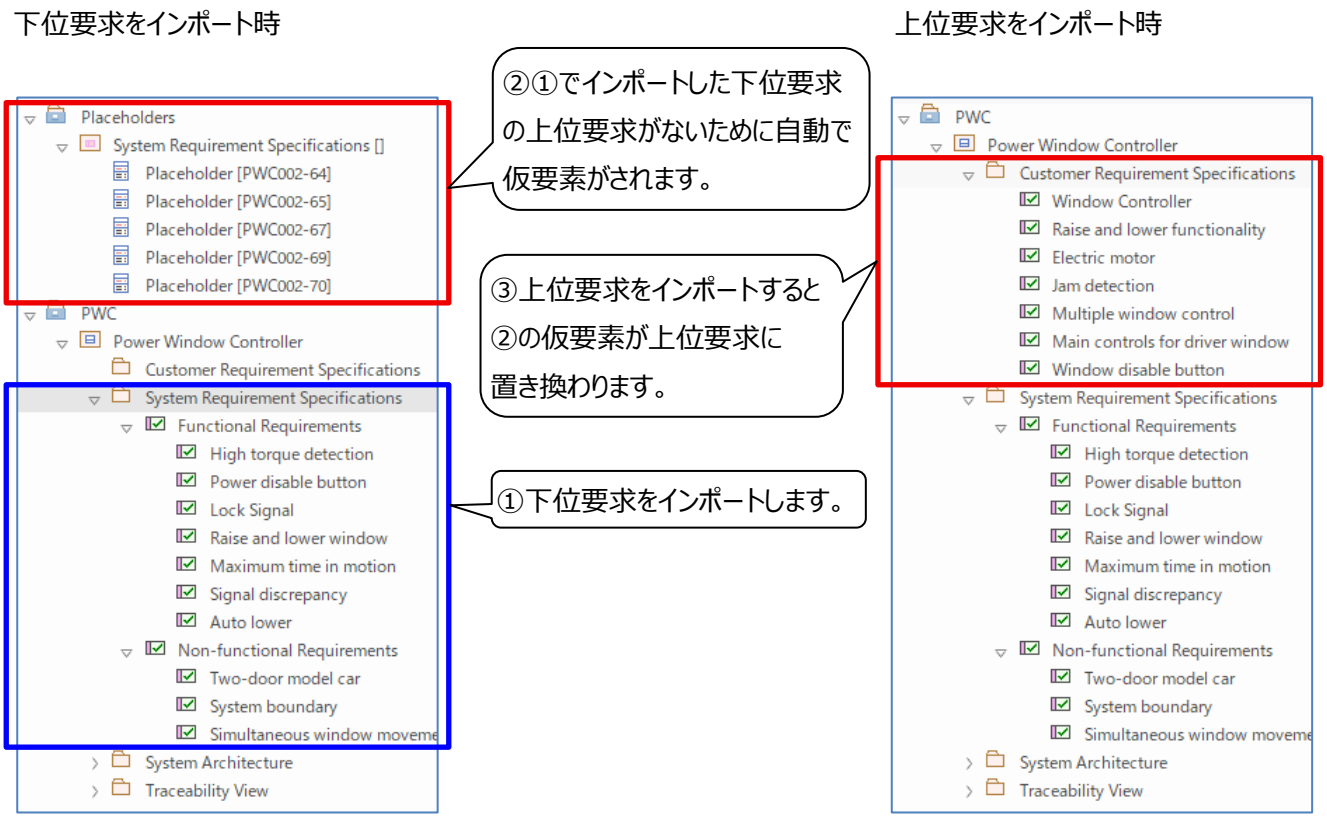
Copyright (c) 2025 Sparx Systems Japan

（参考情報）

ここでは、インポートしたときに参照先がないと自動で仮要素を作成する仕組みについて説明します。

たとえば、Polarion の下位要求のみをインポートした場合、Enterprise Architect ではインポートした下位要求の上位要求を Placeholder 要素として作成し、下位要求との関係を保持します。その後、上位要求をインポートすると Placeholder 要素は上位要求に置換されます。

以下は、下位要求、上位要求の順にインポートしたときの Enterprise Architect のモデルブラウザの内容です。
（パッケージごとのインポートは、Polarion の Document を利用しています。）

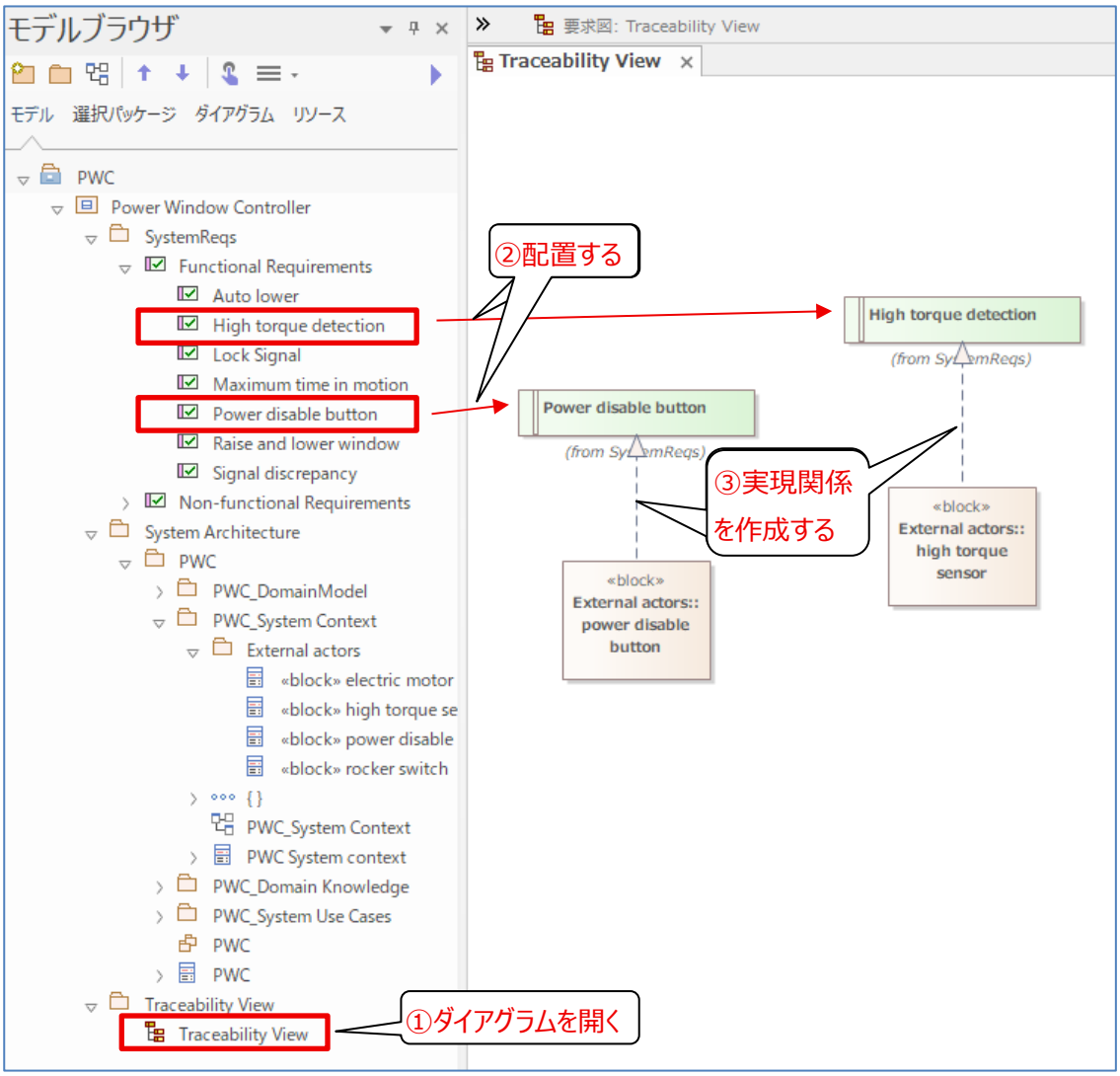


Copyright (c) 2025 Sparx Systems Japan

6.4. エクスポート（Enterprise Architect → Polarion）

Enterprise Architect の設計情報（ブロック・クラス要素）をエクスポートすると、Polarion に Work Item が作成されます。手順は以下のとおりです。

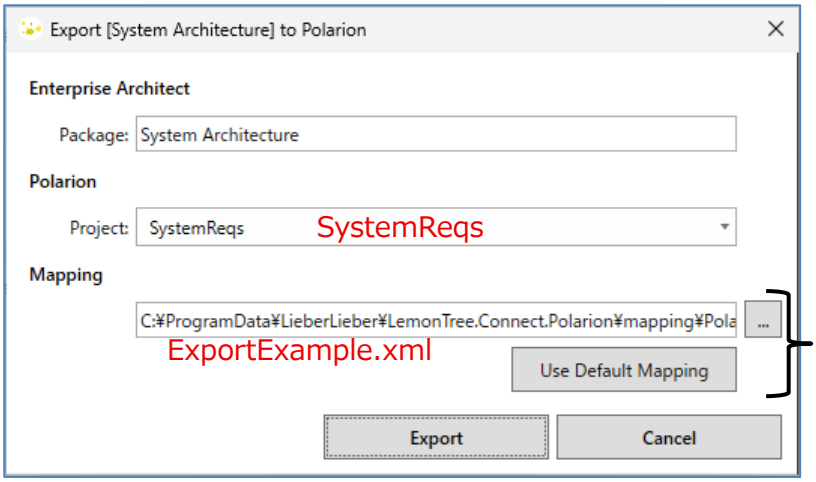
1. Enterprise Architect の要素間の実現関係が Polarion に反映されることも確認するため、下記のように Enterprise Architect でダイアグラムを開き、インポートした要求要素と設計情報（ブロック要素）の間に実現関係を作成します。



2. エクスポートの設定を行なうため、モデルブラウザでパッケージ「System Architecture」を右クリック ＞ アドイン・拡張 ＞ LemonTree.Connect for Polarion＞ Export to Polarion を選択します。

Copyright (c) 2025 Sparx Systems Japan

3. 下記画面のように「Project」「Mapping」を選択します。



Polarion の Work Item の種類・リンクと Enterprise Architect の要素の種類・接続の種類のマッピングとして、xml ファイルを指定します。ExportExample.xml はサンプルデータに含まれています。

Mapping の変更方法は以下いずれかになります。
・1 回目の Import は、左記画面で xml ファイルを指定する
・2 回目以降の Import は、当該パッケージを右クリック ＞ LemonTree.Connect for Polarion ＞ Update Mapping を選択する

マッピングファイルの概要（既定ファイルとサンプルデータ用ファイルについて）

#	項目	Polarion	Enterprise Architect	PolarionExport Mapping.xml（既定ファイル）	Export Example.xml（サンプルデータ用）
1	WorkItem/要素	package	Package	○	○
2	WorkItem/要素	class	Class (すべて)	○	
3	WorkItem/要素	block	Class (blcok)		○
4	WorkItem/要素	class	Class (設定なし)		○
5	WorkItem/要素	property	Property	○	
6	WorkItem/要素	operation	Operation	○	
7	WorkItem/要素	parameter	Parameter	○	
8	WorkItem/要素	interface	Interface	○	
9	WorkItem/要素	component	Component	○	
10	WorkItem/要素	port	Port	○	
11	WorkItem/要素	actor	Actor	○	
12	WorkItem/要素	usecase	UseCase	○	
13	WorkItem/要素	Project	Model	○	○
14	リンク/接続	implements	Realization	○	○
15	リンク/接続	relates_to	Association	○	○
16	リンク/接続	depends_on	Dependency	○	○

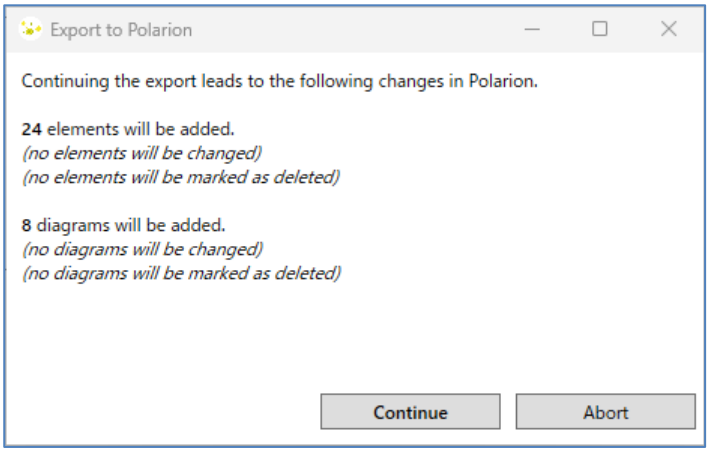
※()内はステレオタイプです。
※5~12 の利用には Polarion で設定が必要です。13 は必須項目です。
※開発元のページは下記をご覧ください。

https://help.lieberlieber.com/polarion/mapping-configuration/#default-export-mapping

4. 「Save」をクリックして設定を保存します。

Copyright (c) 2025 Sparx Systems Japan

5. エクスポートが開始され、下記のような変更内容を示した事前確認の画面が表示されます。



6. エクスポートしてよろしければ、「Continue」をクリックすると実際にエクスポートが行なわれます。
   結果として Polarion 側で以下となります。
   - ✓ Enterprise Architect の設計情報（ブロック・クラス要素）に相当する Work Item が作成されます。
   - ✓ Enterprise Architect の関連関係が、当該 Work Item 間で relates_to のリンクとして設定されます。
   - ✓ Enterprise Architect の実現関係が、当該 Work Item 間で implements のリンクとして設定されます。
     （手順 1 の作成例の場合、Work Item「high torque sensor」で Work Item「High torque detection」が implements のリンクとして設定されます。）

7. Polarion 側で、エクスポートした設計情報（ブロック・クラス要素）に相当する Work Item の「Hyperlinks」に表示されているリンクをクリックすると、Enterprise Architect の当該設計情報にジャンプします。

以上でエクスポートの手順は終了です。サンプルプロジェクトの利用手順は以上となります。

Copyright (c) 2025 Sparx Systems Japan

7. 機能紹介

ここでは 6 章に記載されていない機能をいくつかご紹介します。

7.1. インポートで削除候補となった要素・接続に対する操作

インポートにおいて、Polarion の要求や要求間のリンクの削除は、Enterprise Architect では当該要素や接続にステレオタイプ「LemonTree Connect::deleted」を設定する形で反映され、削除はされません。その後の当該ステレオタイプが設定された要素や接続に対する操作につきましては、以下 2 つの方法があります。

✓ 当該ステレオタイプを解除

要素・接続に設定されている当該ステレオタイプを解除します。
手順は、当該要素を含むパッケージを右クリック > アドイン・拡張 > LemonTree.Connect for Polarion > Deleted Elements > Unassign <<deleted>> Stereotype を選択します。

✓ 当該ステレオタイプの要素や接続を削除

当該ステレオタイプが設定された要素や接続を削除します。
手順は、当該要素を含むパッケージを右クリック > アドイン・拡張 > LemonTree.Connect for Polarion > Deleted Elements > Delete Elements from EA Project を選択します。

詳細につきましては以下のページをご確認ください。
https://help.lieberlieber.com/polarion/delete-detection-during-import/#resolving-deleted-elements-and-connectors-in-enterprise-architect

Copyright (c) 2025 Sparx Systems Japan

7.2. エクスポートで要素の削除検知

エクスポートにおいて、デフォルト設定では Enterprise Architect の要素の削除は Polarion に反映されません。
ただし、削除検知機能を設定した場合は、削除要素を専用 Work Item の配下に移動する形で削除が反映することができます。当該機能の特徴は以下のとおりです。

- ✓ 削除要素は Work Item「Obsolete Items」の配下に移動する
- ✓ 削除要素の名前の先頭に"[OBSOLETE]"が追加される
- ✓ Document へのエクスポートはサポート対象外

Polarion の設定方法は、当該プロジェクトに「Obsolete Items」という名前の Work Item を作成すれば完了です。
（Work Item の Type は任意です。）

詳細につきましては、以下のページをご確認ください。
https://help.lieberlieber.com/polarion/delete-detection-during-export/

7.3. エクスポートで要素とダイアグラムのリンク作成

エクスポートにおいて、要素（Work Item）と、その要素が配置されているダイアグラム（Work Item）にリンクを作成することができます。具体的には、エクスポート時に当該要素（Work Item）と当該ダイアグラム（Work Item）の Linked Work Items に、Role「visibleOn」でリンクを作成します。これにより、Polarion 上で当該要素（Work Item）と当該ダイアグラム（Work Item）を相互にジャンプすることができます。

設定方法につきましては、Mapping ファイル（.xml）の編集になります。詳細は以下のページをご確認ください。
https://help.lieberlieber.com/polarion/export-diagram-visualizations-of-elements/

Copyright (c) 2025 Sparx Systems Japan

8. FAQ

8.1. エクスポート対象となる要素・属性・接続の種類

以下のページをご覧ください。

要素の種類
https://help.lieberlieber.com/polarion/mapping-configuration/#supported-ea-element-types

属性の種類
https://help.lieberlieber.com/polarion/mapping-configuration/#supported-ea-attributes

接続の種類
https://help.lieberlieber.com/polarion/mapping-configuration/#mapping-ea-connectors-to-work-item-link-roles

8.2. Enterprise Architect で他のアドインの表示が日本語から英語に変わる

下記フォーラムをご覧ください。
https://www.sparxsystems.jp/forum/modules/xhnewbb/viewtopic.php?topic_id=8056
※LemonTree.Connect codebeamer に関する内容ですが、本製品も同様です。

8.3. Enterprise Architect のトレーサビリティマップアドインを使用できない

下記フォーラムをご覧ください。
https://www.sparxsystems.jp/forum/modules/xhnewbb/viewtopic.php?topic_id=8057
※LemonTree.Connect codebeamer に関する内容ですが、本製品も同様です。

Copyright (c) 2025 Sparx Systems Japan

改訂履歴

日付	改訂内容
2025/09/03	・新規作成。

Copyright (c) 2025 Sparx Systems Japan